

山本米様の紹介

山本 裕美(長男)



ほほえみ


母 米は六十四年一月茨城県古河市市原町に八人兄弟姉妹の五番目(三女)として生まれました。兄弟姉妹がとも仲良く、楽しみにぎやかな家庭でした。子供の頃は「朝顔」の花で「色水」を作った遊んだり、古河出身の歴史作家の水井路さん達と一緒に合奏をしたりしていました。また母は運動が好きで女中、特にドッジボールが得意でよくやっていたそうです。そして世の中が段々戦時色がに染められていった時期に青年時代を過ごしました。しかし時二世相であつてもさやかな楽しみがありました。和裁を習ひに通つていた家で縫い物をしながら、同年代の女の子色々おしゃべりをしたことがとても楽しかったようです。(元招子会か?) 今、よく縫い物をする仕事をしてますが、その頃を思い出しているのでしょうか?

自宅から通える地元会社に就職し、そこで父と知り合いました。当時では珍しい恋愛結婚でした。叔母の話では母はかみもてたようです。結婚後、男子二人を授かり子育てに忙しい毎日を送っていました。ところが子供達が小学生の時に父親が入院することになり、母が勤めに出て生活を支えるという生活が数年続きました。その後、親戚や知の協力もあり無事切り替へることができました。その後、家の新築、引っ越し、父親の勤め先の倒産など色々あった中で、東京の再就職が決まった父でしたが通勤時間が長いので職場に泊まることになり、長男も本行動となり多忙のため帰宅できず、ふたとも週二日ほどしか家に帰ってこないという時期が長く続きました。そんな中でも母は一人、家を守ってくれていました。父親の退職後に知人夫婦と一緒に北海道から沖縄まで旅行し、楽しく充実した時を過ごせたことは長々とお話しています。八十歳を過ぎてから転倒して大腿部を骨折したり、父男を病で亡くしたり、長年の友人・知人が次々と亡くなるなど辛いことが続きましたが、十年ほど前から認知症の症状が現れ、最近では歩行困難等で介助が必要になりました。このたびキングスガーデンに入所することができ、日々穏やかに生活をしている母の家が頼られることに感謝をしています。

今後とも宜しくお願い致します。

六月のボランティア

感染対策の為、ボランティア受け入れを中止しております。



雨の中で 輝く あじさい

大雨の訪問

施設長 小川内秀樹

お久しぶりです。お顔を見れて嬉しいですよ！ 外の景色が良く見えるリビングの真ん中に、ベッドで横になって、言葉にならない、あーっ。と、言うような口元と目元の動きで、挨拶に応えて下さいました。顔色は良く、身ぎれいな様子は、介護されている奥様の普段の関わりが見えてきます。

N様は、三月に体調を崩され、退院して自宅に戻る時には、すべてが一変。ほぼ全介助となりました。入院当初、奥様から慌てた様子の電話を頂き、最後はキングスガーデンに行きたいと気持ちを話されました。急な展開の中、話をただ聞いているだけでしたが、そこから三カ月が経つ今、感染対策の期間を通り、看護師、栄養士と共に、ようやく、ご自宅へ訪問する事ができました。初めは施設しかないと考えておられた所から、今は、ご自宅で奥様とお子様の献身的な介護で、落ち着いた雰囲気がありました。施設から車で一時間。降り続く雨が激しくなり、土砂降りの中、玄関を入りましたが、家の中は温かく、安心の空間でした。ご高齢にも関わらず、朝早く集合するバザーのボランティアでも、N様の運転で、ご夫婦でこの長い道のりを長年通って来られました。大雨の年もありました。

人生の鶴地の際、キングスガーデンを頼って頂けた事に感謝の思いを馳せると共に、できる限りの事をさせて頂きたいと心に刻む雨の日となりました。

父の日

慈の汀ヘルパー 柏木 裕美

あなたのひとこぼは、私の足のともしび、私の道の光です。

詩篇119編105節



ホームページ

六月二十二日に、キングス・ガーデン特養で、父の日のお祝いをしました。花束は、オレンジ色のバラと黄色いカーネーションをメインに作って頂きました。その花束を男性利用者者にお渡しすると、ニコニコしながら受け取る方、照れくさそうに受け取る方、反応は様々でしたが、皆さん笑顔で、写真に写っていました。

これからも、お元気で穏やかに過ごしてください。




畑で育てたジャガイモを収穫しました。

ホクホク芋を召し上がれ!



沢山収穫出来ました。

楽しみ作り

旨いなあ。

午後ティータイム

美味しいわ。



様々なケーキを召し上がれ!

ケーキカフェ

相談員日誌 「日々のお祈り」 宮本 隆幸

七月半ば、梅雨の時期が続いており、暑くじめじめとした嫌な毎日が続いております。考えてみれば、令和二年度も早いもので後半を迎えました。以前としてコロナが治まりません。都内では、感染者が増え、第二波が起ころうとしている状況です。施設内でのコロナ対策も油断できない状況です。このような状況からこそ信仰を持ち、日々生活する事が大切であると強く感じます。信仰をもって主の約束に結び付き、そして、主は、背中を押して下さいます。「恐れるな、わたしはあなただけを助けたのだから。わたしはあなただけを助けたのだから。わたしの義の右の手で、あなたを守る。」イザヤ四十二章十節。主が共にいて下さる。「コロナ」「恐怖」に怯えずに前向きに正して下さる御言葉です。普段と変わらずに入居者様と共に楽しみある毎日を過ごしていかれたら良いと思います。

入所されている方々をこの恐怖から最後までお守りくださりますように。また、この災いが早く解決し、感染された方々の上にも迅速な回復がなされていきますように。日々お祈りしております。

七月の誕生会

中島とめ様 大正十三年 七月十五日 九十九歳
栗崎勝三様 昭和三十三年 七月二十八日 五十八歳

お誕生日おめでとうございます。

七月

※感染症対策のため七月の行事・ボランティアを中止しております。

二日(木) 常陸市共済会投票所 ジヤスミン理美容

【八月】

※感染症対策のため未定となっております。

地球の大きな変化

理事長兼総合施設長 宇都宮和子

ナイチンゲールの「看護覚え書き」には、室内の空気を戸外の空気と同じにきれいに保つことが看護第一の原則と述べられ、家屋の衛生として清浄な空気、清浄な水、よい排水、清潔、光の五つの要点があげられています。今、コロナウイルス対策に取り組みながら改めて、手洗い、換気、清潔(消毒)等を使うとナイチンゲールの原則の重要性が身近に覚えます。昨年、アフガニスタンの原爆に倒れた中村哲医師も命を守るためにまず清浄な水を重要と考え、その実践に取り組みしました。今、地球は大きく変化しようとしています。地球の温暖化により、50年に一度と言いつながら毎年、日本の川が氾濫、多くの命が閉ざされています。特に体の不自由な高齢者や障がい者の方々や生活を共にしている、テレビから流れる映像に心が痛みます。コロナウイルス対策、又水害や地震等に対する予防対策も法人としても一度、計画の連携と見直しが必要になっていきます。特別なことなく、日々の生活様式に取り入れ、緊急時に対応できるように、地域やご家族の皆様とも連携を取りながら実践していきたいと祈っています。皆様のご協力宜しくお願い致します。